

会 告

第 101 回 (昭和 56 年 4 月) 講演大会講演募集案内

申込 (原稿同時提出) 締切り 昭和56年1月12日(月)

本会は第 101 回講演大会を昭和 56 年 4 月 2 日(木), 3 日(金), 4 日(土) の 3 日間東京大学において開催することになりました。下記により講演募集をいたしますので、奮ってご応募下さるようご案内いたします。

講演希望者は昭和 56 年 1 月 12 日 (月) までに申込用紙と講演概要原稿を提出して下さい。

なお、前回より講演概要中の図、表、写真の説明は英文で書いてもよいことになっておりますのでお知らせいたします。

講演概要は英文化 (所定のタイプ用紙 1 枚) し, Trans. ISIJ に投稿できるようになっておりますので、多数ご投稿下さるよう併せてご案内申し上げます。投稿締切: 昭和56年 4 月 30 日 (木) (詳しくは N316 頁参照)

講演ならびに申込要領

1. 講演内容 鉄鋼の学術、技術に直接関連あるオリジナルな発表
2. 講演時間 1 講演につき講演15分
3. 講演前刷原稿
 - 1) 原稿は目的、成果、結論が理解しやすいよう簡潔にお書き下さい。
 - 2) 設備技術に関する原稿には計画にあつての基本方針、特色、成果等が必ず盛込まれているものとする。
 - 3) 商品名等は原則としてご遠慮願います。
 - 4) 謝辞は省略して下さい。
 - 5) 原稿枚数は原則として所定のオフセット用原稿用紙 (1600字詰) 1 枚とします。しかし内容的に止むを得ない場合は 2 枚までを認めます。(いずれも表、図、写真を含む) ただし編集委員会で査読のうえ 1 枚にまとめなおし願うことがありますのであらかじめご了承下さい。
 - 6) 原稿は所定の用紙にタイプ印書あるいは黒インキまたは墨を用い手書きとして下さい。
 - 7) 単位は「鉄と鋼」投稿規程に準じます。
 - 8) 図、表、写真の説明は和文または英文とします。
 - 9) 原稿用紙は有償頒布いたしております。
 - 10) 原稿の書き方は鉄と鋼 Vol. 66, No. 13 会告末に綴込まれております。
4. 講演申込資格 講演者は本会会員に限ります。非会員の方で講演を希望される方は、所定の入会手続きを済ませたうえ、講演申し込みをして下さい。また共同研究者で非会員の方も入会手続きをされるよう希望いたします。
5. 講演申込制限 講演申し込みは 1 人 3 件以内といたします。
6. 申込方法 本誌会告末に添付の講演申込用紙ならびに受領通知ハガキに必要事項を記入の上、講演前刷原稿とともに申し込み下さい。
7. 申込用紙の記載について
 - 1) 申込用紙は (A), (B), (C) とともに太字欄をのぞき楷書でご記入下さい。(申込用紙は、本誌会告末に綴込まれております)
 - 2) プログラム編成上の参考といたしますので、「講演分類欄」に講演内容が、下記講演分類のいずれに該当するか、番号でご記入下さい。
 - 3) 講演者には氏名の前に○印を、また研究者氏名にはローマ字読みを付して下さい。
 - 4) 講演要旨は、情報管理のための文献検索カードに利用いたしますので講演内容が明確に把握できるようおまとめ下さい。
8. 申込みの受理 下記の申し込みは理由のいかんにかかわらず、受付はいたしませんので十分ご注意下さい。
 - 1) 所定の用紙以外の用紙を用いた申込
 - 2) 必要事項が記入されていない申込
 - 3) 単なる書簡または葉書による申込ならびに電報、電話による申込

4) 鉛筆書き原稿，文字が読みづらいもの，印刷効果上不適当なものと認められるもの

9 申込締切日 昭和 56 年 1 月 12 日 (月) 17 時着信まで

申込用紙，講演前刷原稿を同時提出のこと。

10 申込先 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階
(社) 日本鉄鋼協会 編集課 (電) 03-279-6021 (代)

講演分類

製 鉄						製 鋼					加 工		
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
製鉄基礎	原料・燃料	高炉製鉄	還元鉄製造	合金鉄	製鉄耐火物	製鋼原料	製鋼基礎	溶解・精錬	鑄造	製鋼耐火物	塑性加工	熱処理	表面処理・防食
加 工			材 料										
15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25			
鑄造	粉末冶金	溶接	基礎物性	組織	性質	分析	試験・検査技術	計測・制御	管理環境・情報	その他			

原稿用紙，合本ファイル有償頒布について

1. 原稿用紙 (鉄と鋼用本文用紙 50 枚・図面用紙 16 枚綴)

1 冊 400円 (〒 250円)

2～3 冊 (〒 300円)

2. 図面用紙 (鉄と鋼用 50 枚綴)

1 冊 400円 (〒 250円)

2～3 冊 (〒 300円)

3. 講演前刷用原稿用紙

頒布料金 1 枚 5 円 (頒布の枚数は下記のとおり限定いたします。なお料金は送料込)

5 枚 225円, 20枚 400円, 40枚 500円

10枚 250円, 25枚 425円, 50枚 850円

15枚 275円, 30枚 450円

100 枚以上は小包となりますので係までお問い合わせ下さい。

4. 「鉄と鋼」用合本ファイル

1 冊 250円 (送料別)

5. 申込方法 ①原稿紙の種類，②枚数，③送付先明記のうえ，④料金 (切手でも可) を添えお申し込み下さい。

6. 申込先 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階 日本鉄鋼協会 庶務課

第 101 回講演大会 (昭和 56 年春季)

ポスターセッション講演募集案内

申込(原稿同時提出)締切り 昭和56年 1月12日(月)

発表形式の新しい試みとして3年間にわたり春の講演大会でポスターセッションを実施いたしましたところ、大変好評を博しました。そこで 56 年の春季大会でも引き続きポスターセッションを実施し、一層の成果をあげたいと存じます。

ポスターセッションとは何か? 講演者にはポスターをはる場所と長い時間を与え、聴講者には聴きたい講演の選択と時間を与え、個人の間の十分な触れ合いと意見交換ができるようにした新しい方式であります。

ポスターセッションはどのように運営されるか? 講演者には室内にポスターのはれる壁面の他に机 1 個が用意されます。発表時間は約 2 時間与えられます。1 名以上 (できれば 2 名) の講演者が必ずその場に居ることが必要であります。講演者は下記の注意を守る限り、ポスター、写真、試料、テープレコーダなど何を用いてもよく、聴講者はどのブースでも話を聴きあるいは討論することができます。

今大会でのポスターセッションの運営方法 現状では従来方式の講演をこの方式に全部置きかえることは困難であります。今回は製鉄(高炉炉内状況)、製鋼(新しい転炉製鋼技術)、加工、性質(ステンレス鋼)の各部門につき各 5~10 講演をポスターセッションで運営する予定です。

(* 前 2 回は基礎的なものに限りましたが、今回は技術的なものも歓迎いたしますので、是非ご参加下さい。)

(1) ポスターセッションを希望する場合、講演申込書の「特記事項」欄に「PS 希望」と朱書して下さい。ただし申込み多数の場合には一般講演に変更することもあります。

(2) 一般講演の中から編集委員会でポスターセッションの適用のおすすめをすることもあります。

(3) 講演の前刷りは普通講演に準じます。

(4) ポスターセッションの時間は次のようにいたしました。

	ポスター 搬入展示	講演・討論	撤 去
午 前	9:00 ~10:00	10:00 ~12:00	12:00 ~12:30
午 後	12:30 ~13:30	13:30 ~15:30	15:30 ~16:00

(5) ポスターを張る壁面は、幅 1.8m×高さ 1.0m 1 面と、幅 0.9m×高さ 1.0m 2 面があります。

ポスターは壁面に画紙で張り、B 4 判を使いますと壁面に約 20 枚が一度にはれます。(画紙、セロテープなどは協会では準備します)。サンプルや模型、写真アルバムなどは机の上に展示することもできます。

(6) ポスターに書く文字は 2 m 離れてもみえるように字の大きさを日本字は 10 mm 以上英字や数字は 7 mm 以上に大きくして下さい。

(7) 事務局にて壁面の上部に横書きで講演番号、演題、所属、発表者を記しておきます。

(8) ポスターは 1 枚ごとに左上に講演番号を記しておいて下さい。

(9) 講演者には胸につける番号札をさし上げますので講演中つけて下さい。

(10) スライドは使用できません。

(11) ポスターセッションへの申込方法は、一般講演申込と同じです。



欧文誌 (Trans. ISIJ) への講演概要 (第 101 回大会) 投稿案内

本会は会員各位の研究成果の発表の一つとして、講演大会を年2回(春・秋)開催いたしております。編集委員会では当講演大会をより良くするため、ポスターセッション方式による講演の導入や、最近では欧文誌を通して広く海外からの参加を呼びかけるなど種々検討を重ねております。

ご承知の通りわが国における鉄鋼生産技術は世界の注目を集めており、その成果及び動向が最も早く把握できる手段は当春秋講演大会およびその講演概要集であります。海外においても当講演内容には非常に関心が高く、本会への講演内容に関する問い合わせは相当の数にのぼっております。

以上のことから本会編集委員会で種々検討の結果、春秋の講演を早い時期に欧文誌で海外に紹介することは大変有益であるとのことから、昭和55年1月発行の欧文誌から講演概要(英文)を掲載いたしておりますが、海外より大変好評をいただいております。今101回(昭和56年4月)大会は、下記により公募いたしますので、奮ってご投稿下さいませようご案内申し上げます。

記

- I. 副原稿(コピー原稿)締切日 昭和56年4月30日(木)
(56年1月12日締切の講演原稿(和文)と同時に提出も可)
- II. 原稿枚数 本会所定の原稿用紙1枚(図、表、写真を含む)
(お申し出いただければ所定原稿用紙を送付いたします)
- III. 原稿内容 原稿は講演概要(和文)の内容とまったく同じものを原則とします。やむを得ず内容が異なる場合は、改めて英文原稿の和文直訳を同封して下さい。
- IV. 執筆の仕方 執筆者がタイプされた原稿がそのまま約80%縮尺され、オフセット印刷されますので下記ご留意のうえご執筆下さるようお願いいたします。
 - 1) タイプライターはカーボンリボンを使用し(ファブリックリボンは不可)、活字は原則としてエリート(12 pitch)でsingle space(64行)、2段打ちにして下さい。
 - 2) 図、表、写真は縮尺を考慮し作成して下さい。
 - 3) 英文タイトルは講演申込用紙に記入されたものが英文校閲のうえ講演概要集に掲載されますので、そのタイトルに従って下さい。
- V. 原稿提出
 - 1) 投稿のさいは、最初に副原稿(コピー原稿)1枚をご提出下さい。そのコピー原稿により英文校閲がなされ、その結果が編集委員会より連絡されますので、そのうえで本原稿を提出願います。
 - 2) 上記締切日以降は受付られません。

注) 副原稿(コピー原稿)とは、執筆要領にのつとつた形式でタイプされたもの、あるいは本原稿をコピーしたものです。

注) 講演概要投稿後、投稿規程に従って Research Article として投稿されることを歓迎いたします。
- VI. 欧文誌掲載
 - 1) 掲載にあたっては英文校閲がなされますので、結果によつては英文修正を依頼することがあります。
 - 2) 欧文誌 (Transactions of The Iron and Steel Institute of Japan) Vol. 21 (1981), Nos. 7~12 に亘つて掲載されます。
- VII. 原稿送付先 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3階
問い合わせ先 日本鉄鋼協会編集課欧文誌係 (Tel. 03-279-6021)

第 71 回西山記念技術講座開催のお知らせ

—— 80 年代における日本鉄鋼業 ——

主催 日 本 鉄 鋼 協 会

第 71 回西山記念技術講座を下記のとおり開催いたしますので多数ご来聴下さいますようご案内いたします。

I 期 日 昭和 55 年 12 月 16 日(火), 17 日(水)

東京 農協ホール (千代田区大手町 1-8-3 農協ビル 9 階 TEL 03-279-0311)

II 演題ならびに講師

第 1 日	1.	9:30~10:40	80年代日本鉄鋼業の展望	日本鋼管(株)常務取締役技術開発本部長	白松 爾郎
	2.	10:50~12:00	日本経済における鉄鋼業の役割	日本興業銀行産業調査部長	奥村 有敬
	3.	13:00~14:30	鉄鋼業の省エネルギーとその課題	住友金属工業(株)エネルギー管理室長	山本 哲也
	4.	14:40~16:10	製鉄用資源の将来	新日本製鉄(株)鉱石部長	今井 敬
第 2 日	5.	9:30~11:00	製錬技術の将来	川崎製鉄(株)技術研究所次長	岡部 俠児
	6.	11:10~12:40	加工技術の将来	大阪大学工学部教授	加藤 健三
	7.	13:30~15:00	直接製鉄法の将来	(株)神戸製鋼所開発企画部次長	西田礼次郎
	8.	15:10~16:40	特殊鋼業の将来	大同特殊鋼(株)常務取締役	藤原 達雄

III 講演内容

1. 80年代鉄鋼業の展望 白松 爾郎

80年代における世界鉄鋼業の趨勢およびそのなかにおける日本鉄鋼業の位置づけについて考察する。

次いで、周辺状況の動向とその技術対応、すなわち、エネルギー、資源の動向とそれに対応する製鉄プロセスの動向あるいは、製品使用分野のニーズ動向に対応する新製品開発の動向等について述べる。

最後に、これ等技術開発の基盤となる今後の研究開発について、日本鉄鋼業の役割およびその体制、方向について論ずる。

2. 産業界における鉄鋼業の役割 奥村 有敬

わが国鉄鋼業は、卓越した生産プロセスとそれに基づく圧倒的な国際競争力を背景に、いま世界の鉄鋼供給基地ともいふべき立場にあるとともに、わが国の国民経済への貢献には極めて大きなものがある。第 71 回講座では、このようなわが国鉄鋼業が戦後の国民経済に果たしてきた役割をあと付け、さらに 80 年代のわが国産業界を巡る環境を展望することにより、そこにおける鉄鋼業の新たな役割について一考察を試みたい。

3. 鉄鋼業の省エネルギーとその課題 山本 哲也

製鉄用のエネルギーは、大別すると石炭系、石油系、電力系に分けられるが、第 1 次オイルショックを契機として、石油系燃料の大幅削減に努力してきた。その努力の跡と、オイルレス製鉄所実現を目指した。今後の省エネルギー対策の限界と、その時のエネルギーバランスを、モデル製鉄所を想定して算出してみた。その結果を紹介したい。

4. 製鉄用資源の将来 今井 敬

わが国は、鉄鋼生産に必要な不可欠な主原料たる鉄鉱石のほとんどを海外に依存している。今回は、この鉄鉱石を中心とし、過去の日本鉄鋼業の発展との関連における発展経緯をのべ、今後、中長期的にみた場合の各国における鉄鉱石の賦存(産出)状況が、量的、質的にどのように変化していくのか、さらに使用する側からみた場合、これに、いかに対応していく必要があるかについてのべてみたい。

5. 製錬技術の将来 岡部 俠児

鉄鋼業における製錬技術の演ずる役割はますます重要になる。日本の全産業の消費エネルギーの 1/4 に達する鉄鋼業の中で乾溜・還元・溶解・精錬の工程は、製鉄所のエネルギー消費形態を決定する。次に産業基礎素材としてより安価でかつ信頼性の高い製品の生産と、用途に合致した高度な性質の製品の生産という要求にいかに応えるかが高炉・転炉法を軸にした 80 年代の課題となる。

6. 加工技術の将来 加藤 健三

鉄鋼における加工技術の問題は 80 年代に入り、その高付加価値化への移行、また、省エネルギー、省力化との関連における連続的加工技術へのアプローチなど多くの解決すべきものを含んでいると考えられる。ここではそれら加工技術のうちで、とくに圧延および塑性加工、さらに連続鑄造圧延、粉末加工などに触れてみたい。なお、それら技術の基礎や理論については一部、私見を述べさせていただく予定である。

7. 直接製鉄法の将来 西田礼次郎

直接製鉄法は多くの長い開発があるが、ここ 10 年来還元鉄(ペレット)製造法として工業的に確立された。現状の還元鉄の世界における設備能力は約 2 千万 t/年で、一般に電気製鋼原料として供給されている。還元鉄は中南米や中近東など天然ガスの安価な地域では主要鉄源の地位を占めるに至っているが、先進国ではスクラップとの併用の方

向にある。

この還元鉄製造について各プロセスの現状の技術、設備能力、製造コストなどの説明と関連技術分野を含めた今後の発展方向について言及したい。

8. 特殊鋼業の将来 藤原 達雄

クオリティー・スチールの時代と呼ばれるほどに、特殊鋼に対する諸要請が増してきた。

航空機産業やエネルギー開発のための高級鋼に、その好例を見ることができる。

一方、量産鋼に対する品質特性値の向上、低廉化などに関する要求も一段と強まってきた。

このような事情をふまえて、特殊鋼の生産推移、生産のためのエネルギー消費、還元鉄利用の問題、製造技術の進歩、需要産業との関連などについて 80 年代の展望を述べる。

IV 聴講無料 (事前の申込みは必要ありません)

V テキスト代 4,500 円

VI 問 合 先 〒100 東京都千代田区大手町 1-9-4 日本鉄鋼協会編集課 TEL 03-279-6021

北海道支部

昭和 55 年度秋季講演会開催案内

本会北海道支部では、日本金属学会北海道支部と共催により秋季講演会を下記により開催いたします。

記

期 日：昭和55年11月13日(木)～14日(金)

場 所：室蘭工業大学学生会館 (室蘭市水元町27-1)

第1日目 11月13日(木)10:00～18:40

- 2相ステンレスクラッド鋼の熱処理について
日鋼室蘭 中島 進, ほか
- Fe-Cr 合金におけるスピノーダル分解と核形成-成長型析出について
室工大 桑野 寿, ほか
- 極厚 C-Mn-V 鋼の機械的性質ならびにその COD 特性 日鋼室蘭 内山 英二, ほか
- 溶銑脱 Si 処理における操業技術上の諸改善について 新日鉄室蘭 名木 稔, ほか
- 製鋼工場における省エネルギー省資源対策 清水製鋼 小牧 坂井 豊, ほか
- 鋼塊内におけるザクの発生領域の検討 日鋼室蘭 山田 人久, ほか
- 融着帯の検知推定法の検討 (ホットモデルによる高炉融着帯の研究-II) 新日鉄室蘭 入田 俊幸, ほか
- 焼結鉄の還元粉化に及ぼすガス流速の影響 新日鉄室蘭 高田 司, ほか
- 液体水銀インジウム合金の表面張力について 北大理 伊丹 俊夫, ほか
- Ni₃Al-Ni₃Nb 共晶合金の熱膨張 北大工 福地 正明, ほか

第2日目 11月14日(金) 9:30～15:55

- Cu-Zn-Al 合金単結晶での $\beta_1 \rightarrow \beta'_1 \rightarrow \alpha'_1$ 二段変態の成分依存性 北大工 佐藤 博保, ほか
- 白色X線回折法による Al 単結晶のペンデルビートの測定 北大工 小林 一介, ほか
- Cu-Al 合金の再結晶集合組織の発達 北大工 横山 悦雄, ほか

- 落重試験結果のばらつきとその冶金学的考察 日鋼室蘭 田中 泰彦, ほか
- フェライト系ステンレス鋼の耐食性に及ぼす Ni の影響 新日鉄室蘭 山本 章夫, ほか
- 硫化水素環境における高強度低合金鋼の挙動に関する研究 日鋼室蘭 小川昭弘, ほか
- Ti の応力腐食割れ伝ば速度の温度依存性 北大工 柴田 俊夫, ほか
- 347 ステンレス鋼オーバーレイ溶接部の耐粒界腐食性について 日鋼室蘭 斎藤 研, ほか
- 原子炉用 316LN ステンレス鋼の耐粒界腐食性と耐 SCC 性 日鋼室蘭 小泉 等, ほか
- Fe-3%Ti 合金表面不動態皮膜中への Ti の濃縮について 北大工 松村 喜寿, ほか
- Co-Mn 合金の高温酸化 北大工 成田 敏夫, ほか
- Ar-SO₂ 系における Fe-Mn 合金の高温腐食 北大工 黒川 一哉, ほか
- 鋼中の (MnO+MnS) 二相介在物の形成過程 北大工 木下 章, ほか
- 高炭素鋼における MnS の形成過程について 北大工 松浦 清隆, ほか
- 鋳塊凝固の収縮について 北大工 大笹 憲一, ほか
- 鋳造用 Al-Mg 合金の組織と塑性加工性の関係 室工大 菅谷 雅広, ほか

第5回 国際AEシンポジウム開催要領

主催 (社)日本非破壊検査協会 協賛 本会, 他
日 時 1980年11月18日(火)～20日(木) 3日間
会 場 科学技術館

東京都千代田区北の丸公園 2-1
Tel. (03)212-8471

事務局 (株)日本非破壊検査協会第5回国際AEシンポジウム係
〒111 東京都台東区浅草橋 5-4-5
ハシモトビル7階 Tel. (03) 863-6524

第 16 回鉄鋼製錬研究懇談会

主催 東北大学選鉱製錬研究所 共催 選鉱製錬研究会
日本鉄鋼協会東北支部, 日本金属学会東北支部

日 時 昭和 55 年 11 月 27 日(木) 9:30~17:00

場 所 東北大学選鉱製錬研究所講堂

主題 鉄鋼製錬における Si, S および P の相互関連

1. 材料需要および材料特性の将来動向と
精錬技術の課題 住友金属中研 寺崎富久長
2. 原料の将来動向からみた S および P の諸問題
海外原料調査委員会 西田 信直
3. Si および S の移行反応に関する考察
東北大学選研 徳田 昌則
4. 高炉の低シリコン操業における諸問題
新日鉄生産研 田村 健二
5. 予備精錬および転炉精錬における脱磷に関する
考察 東北大学選研 水渡 英昭
6. Si と P の関係からみた溶銑予備処理と
転炉技術の位置づけ

日本鋼管福山研 宮下 芳雄

参加費 無料

申込締切 昭和 55 年 11 月 15 日(土)

申 込 先 仙台市片平 2 丁目 1-1

東北大学選鉱製錬研究所 徳田昌則

第 9 回国際原子分光学会議及び 第22回国際分光学会議

主催 日本分析化学会

会場 上智大学およびホテルニューオータニ

期日 1981 (昭和56) 年 9 月 4 日(金)~8 日(火)

連絡先 日本分析化学会

昭和 55 年度工業教育研究講演会の開催について

主催 日本工業教育協会 協賛 日本鉄鋼協会, ほか

日 時 昭和55年11月29日(土) 9:30~4:30

場 所 東京電機大学 7 号館講堂
(千代田区神田錦町 2-2)

参加費 無料, 講演予稿代 1000 円

問合せ先 (社)日本工業教育協会

〒105 東京都港区新橋 2-19-10 蔵前工業会館

Tel. 03-571-1720

第一セッション 工業教育の理念

① 工業経営教育における理論と実際

伊藤 清和 (日大)

② 短大商経科における工業教育を中心として

三品 広美 (龍谷大)

第二セッション 工業教育の評価

① 練習時間が不規則変動する学習成績モデル

松永 公廣 (明石工専)

② 入学者選抜と入学後の成績に関連する問題
について

飯屋 司 (都城工専)

③ 工学教育に関する調査研究 (2)

鈴木 幸三 (八戸工専)

特別講演 工学と境界領域

向坊 隆 (東大学長)

第三セッション 企業内教育

① わが社の教育理念と若手社員の育成

松元 保磨 (竹中工務店)

② 米国企業における技術者教育

深尾 昭雄 (新日鉄)

第四セッション カリキュラム

① 工学系の学生教育において修得が望まれる

共通専門科目 右田 俊彦 (群馬大)

② プロジェクトによる設計基礎教育

岡村 秀男 (上智大)

③ 製図と制作の初期的相互教育の一試行

大柳 康 (工学院大)

日本学術会議会員候補者推薦について

来る 11 月 25 日 (投票締切日) に行われる日本学術会議第 12 期会員選挙の会員候補として本会は理事会の議を経て下記の方々を推薦することを決定いたしましたのでお知らせいたします。

記

全国区第 5 部 (金属工学) 推薦候補者

新日本製鉄株式会社取締役八幡製鉄所副所長

川崎製鉄株式会社常勤顧問

甲 斐 幹君

三本木 貢治君